

令和6年度 西東京市立芝久保小学校 学校自己評価報告書

領域		中期経営目標	番号	短期経営目標	具体的方策	努力目標	成果目標	教職員 学年 評価	アンケート	評価 (%)	分析	改善策	学校関係者評価欄 評価 意見		
		<p>&lt;学校教育目標&gt;</p> <p>自他の人権を尊重し、よりよい国際社会を築くための資質や能力の伸長を図る。自ら学び、自ら考え、元気で心豊かな思いやりのある児童の育成を目指す。</p> <p>○粘り強く考える子 自己の目標をもち、よく考え、他者の考えを取り入れて課題を解決し、学び続ける児童を育てる</p> <p>◎仲良くする子 生命の尊さや自他のよさに気付き、規範意識をもち、相互に思いやり、励まし合える児童を育てる</p> <p>○元気に活動する子 健康に留意し、規則正しい生活習慣を身に付け、運動に親しみ、進んで心身を鍛える児童を育てる</p>						<p>学校関係者評価</p> <p>A…評価は適切である</p> <p>B…評価に一部改善が必要である</p> <p>C…全体的に改善が必要である</p>							
		<p>&lt;目指す学校像・児童像・教師像&gt;</p> <p>『自らを律し、ともに学び合う児童の育成』～生きる力を育む～</p> <p>○目指す学校像 あったか先生のいる学校：4つの「あ」を大切に、心も体健やかに育ち、学習効果上がる学校「愛情」「安全・安心」「あいさつ・温かい言葉」「ありがとう」</p> <p>○目指す児童像 自ら学び、確かな学力を身につける児童 自他の生命を尊重し、豊かな人権感覚をもつ児童 健康と安全に心掛け、体力の向上に努める児童</p> <p>○目指す教師像 教科指導や児童指導に専門的な力をもつ教師 児童理解を深め、児童の心を開く、信頼される教師 使命感と責任感をもち、研鑽に努める教師</p>													
確かな学力の向上	教職員の指導力の向上	1学	芝久保学習スタンダードに基づいた指導の実施	本時の目標を基にめあてを示し、学習の見通しをもたせる。また、めあてに対するまとめや振り返りを行い、学習した内容を再確認させる。	④ 週に5回以上実施	④ 児童の深まっているという評価80%以上	① 3.5 ② 4.0 ③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 3.5 専 4.0 全 3.9	児童	学校の授業はよく分かる。	90	めあてに対するまとめを意識して取り組んでいるので、9割の児童が授業はわかりやすいと答えている。 ・芝久保学習スタンダードに基づき、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。	・今後も授業におけるめあてを示し、それに対するまとめや振り返りを行い、学習内容の定着を図っていく。 ・芝久保学習スタンダードに基づいた指導を引き続き行っていく。 ・校内研修、校内研究等を通して、指導力の向上に努めていく。 ・理解できていない児童への支援を行っていく。	A	理解できていない、できにくい児童への支援が行き届くように願う。 めあてが示されることは、学ぶ側にとって、やる気や知識欲が刺激されて良い。	
					3 週に3～4回実施	3 児童の深まっているという評価70%以上	③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.9								
					2 週に1～2回実施	2 児童の深まっているという評価60%以上	⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.9								
					1 週に1回未満実施	1 児童の深まっているという評価60%未満	① 3.0 ② 4.0 ③ 4.0 ④ 3.7 ⑤ 3.0 ⑥ 4.0 専 3.5 全 3.6								
2学	自分の考えがもてる指導の工夫	校内研究を中心に、考える内容の明確化、自分の意見をもつ時間の確保、意見交流の時間の設定などの工夫をする。	④ 90%以上の教科及び単元で実施	④ 児童のできているという評価80%以上	① 3.0 ② 4.0 ③ 4.0 ④ 3.7 ⑤ 3.0 ⑥ 4.0 専 3.5 全 3.6	児童	授業に、自分の考えをもつて取り組んでいる。	87	・目標は達成できた。児童も肯定的に捉えている。 ・校内研究を進め、児童の考えをもつことを中心とした指導の個別化を行う授業実践を行うことができた。	90	・「考えをもつ」ということがどういことであるのかを明確にする必要がある。児童と教員が共通の認識をもって考えられるように、来年度は、「考えをもつ」ということは「何か」を深めていく。	A	グループで考える時間が増えて、子供たちが意見交換をすることに慣れていくことは、とても良い。道徳教育など、明確な正誤のない事案について、「そのように考えた」ことの良い点、悪い点まで踏み込んでもらえたらと思う。		
			3 80%以上の教科及び単元で実施	3 児童のできているという評価70%以上	③ 4.0 ④ 3.7 ⑤ 3.0 ⑥ 4.0 専 3.5 全 3.6										
			2 70%以上の教科及び単元で実施	2 児童のできているという評価60%以上	⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.3 全 3.8										
			1 70%未満の教科及び単元で実施	1 児童のできているという評価60%未満	① 4.0 ② 4.0 ③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.3 全 3.8										
豊かな心の育成	生活指導・人権教育の充実	3健	異学年交流を通して、心豊かな思いやりのある児童の育成	ヘア学年活動などの異学年交流を充実させ、互いに認め合い、支え合うことができる指導を実践していく。	④ 月1回以上実施	④ 児童のできているという評価80%以上	① 4.0 ② 4.0 ③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.3 全 3.8	児童	ヘア学年活動などで、違う学年の友達とも仲良くしている。	87	・昨年度から始めた、ヘア学年交流の活動内容記録をもとに、今年度の活動内容を定める参考にすることができた。 ・専科も担当の学年を決めて、各月の活動や遠足等にできる限り同じ教員が参加することができた。	・違う学年の友達とも仲良くし、よりよい人間関係を築くための言語環境の整備を図るべく、ヘア学年と接する際の態度、言葉遣いの事前・事後指導を行うようにする。 ・ヘア学年遠足の交流が、より深まるように内容を充実させていく。	A	異学年の子供たちが、声をかけ合ったり仲良くしている姿をよく見かけ、感心している。 言葉遣いについては、地域でも気に掛けるようにしたい。	
					3 2か月に1回実施	3 児童のできているという評価70%以上	③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.3 全 3.8								
					2 学期に1回実施	2 児童のできているという評価60%以上	⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.3 全 3.8								
					1 学期に1回未満実施	1 児童のできているという評価60%未満	① 4.0 ② 4.0 ③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.3 全 3.8								
4学	児童一人一人を大切にした指導の実施	人権教育の推進を通して、よさを認め、あたたかな心を育む指導を実践する。	④ 90%以上の授業で実施	④ 保護者の取り組んでいるという評価80%以上	① 3.5 ② 4.0 ③ 3.7 ④ 3.7 ⑤ 3.5 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.8	保護者	学校は、お子様のよさを認め、あたたかな心を育む取組をしている。	95	・昨年度に引き続き、「西東京あったか先生の取組」に関わる教員研修や、道徳教育、全員面談を通して学校で一貫した指導を行うことができています。	95	・個人面談や学校生活アンケートを活用し、一人一人を大切にした指導に努め、さらにあったか先生を目指しながら、意識して取り組んでいく。	A	先生の「あったか先生の取組」のアンケート評価も聞けると説得力があるように思う。		
			3 80%以上の授業で実施	3 保護者の取り組んでいるという評価70%以上	③ 3.7 ④ 3.7 ⑤ 3.5 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.8										
			2 70%以上の授業で実施	2 保護者の取り組んでいるという評価60%以上	⑤ 3.5 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.8										
			1 70%未満の授業で実施	1 保護者の取り組んでいるという評価60%未満	① 4.0 ② 4.0 ③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.6 全 3.7										
健康で安全な学校生活	児童の健康と安全の増進	5健	健康に関する教育の啓発・指導の計画的な実施	手洗い、安全な生活、健康についての指導を養護教諭と連携して行う。	④ 毎日実施	④ 児童のできているという評価80%以上	① 3.0 ② 2.0 ③ 4.0 ④ 3.7 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.8 全 3.6	児童	手洗いをしたり、けがに気を付けて生活したりしている。	88	・手洗いについては、おとしから新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、手洗いに対する意識が緩んでいる。また、手洗いはするが、手をハンカチで拭くことが課題である。 ・けがについては、大きなけがの発生件数は少なかった。	・ハンカチを毎日持参するよう、保健だよりなどを活用し、保護者へ周知すると共に、各担任が、手洗いうがいについて声掛けをしていく。 ・丁寧な手洗いや、けが・事故の発生を防ぐため、保健指導の実施や担任と連携し、学級での指導を行っていく。	A	ハンカチを使う習慣が大人も少なくなっているように思う。 冷たい水での手洗いについて、対策はできないのか。	
					3 週に4回実施	3 児童のできているという評価70%以上	③ 4.0 ④ 3.7 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.8 全 3.6								
					2 週に3回実施	2 児童のできているという評価60%以上	⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 3.6 全 3.7								
					1 週に3回未満実施	1 児童のできているという評価60%未満	① 4.0 ② 3.0 ③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 3.5 専 3.6 全 3.7								
6健	いじめの未然防止・早期発見・早期対応	いじめ防止に関する授業や教職員の研修を行ったり、日頃のいじめ防止の対策の取組を交流したりする。また、いじめ調査や情報交換を定期的に行い、実態把握や対応に組織的に取り組む。	④ 児童への授業と教職員の研修を合計年5回以上実施	④ 保護者の取り組んでいるという評価80%以上	① 4.0 ② 3.0 ③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 3.5 専 3.6 全 3.7	保護者	学校は、いじめ対応やいじめ防止についての取組をしている。	88	・学期ごとに学校生活アンケートを全児童に実施することにより、児童の悩み等に寄り添い対応することができた。 ・教職員によるいじめ防止研修を計3回実施することによりいじめに対する意識を高めることができた。 ・いじめについて校内委員会にて情報を共有し、組織として対応に当たった。	88	・4・5回の学校生活アンケートについては、生活指導主任、管理職と確実に共有し、継続的に丁寧に対応していく。 ・研修では、いじめ防止策を共有し、各学級で日常的に実施していけるようにする。全教員、児童ともに「いじめは絶対に許されない」という意識を高めていく。 ・年度初めの研修だけでなく、全教員で「学校いじめ防止基本方針」を繰り返し確認していく。 ・学校便りや、HPなどでいじめに対する取り組みを保護者に発信していく。	A	特にコメントなし		
			3 児童への授業と教職員の研修を合計年4回実施	3 保護者の取り組んでいるという評価70%以上	③ 4.0 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 3.5 専 3.6 全 3.7										
			2 児童への授業と教職員の研修を合計年3回実施	2 保護者の取り組んでいるという評価60%以上	⑤ 4.0 ⑥ 3.5 専 3.6 全 3.7										
			1 児童への授業と教職員の研修を合計年3回未満実施	1 保護者の取り組んでいるという評価60%未満	① 4.0 ② 3.0 ③ 3.7 ④ 4.0 ⑤ 3.5 ⑥ 3.5 専 3.4 全 3.6										
保護者や地域との連携	保護者・地域と連携の推進	7経	家庭や地域への積極的な情報提供	学校ホームページを適切に更新する。	④ 学年や専科で1か月に2回以上更新	④ 保護者の行っているという評価80%以上	① 4.0 ② 3.0 ③ 3.7 ④ 4.0 ⑤ 3.5 ⑥ 3.5 専 3.4 全 3.6	保護者	学校は、ホームページを適切に更新している。	92	・一定の評価を頂けていると考える。学校としてホームページの更新は定期的に行っている。今後は、多くの地域の方や保護者の方にホームページを閲覧してもらえるように、ホームページの啓発活動も取り入れていく。	92	・学校HPのプッシュ通知等のお知らせが設定できない。その代わりに、すぐるでのお知らせの際に、学校ホームページのリンクをはり、閲覧しやすい設定を提供できるように努める。	A	特にコメントなし
					3 学年や専科で1か月に1回更新	3 保護者の行っているという評価70%以上	③ 3.7 ④ 4.0 ⑤ 3.5 ⑥ 3.5 専 3.4 全 3.6								
					2 学年や専科で2か月に1回更新	2 保護者の行っているという評価60%以上	⑤ 3.5 ⑥ 3.5 専 3.4 全 3.6								
					1 学年や専科で学期に1～2回更新	1 保護者の行っているという評価60%未満	① 3.5 ② 4.0 ③ 3.3 ④ 3.7 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.8								
8健	誠実かつ迅速に対応する組織運営	教職員間での連携を密にし、保護者の質問や相談に誠実かつ組織的に対応する。学年間で対応について交流し、改善点を生かす。	④ 事案発生直後	④ 保護者の対応しているという評価80%以上	① 3.5 ② 4.0 ③ 3.3 ④ 3.7 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.8	保護者	学校は、保護者からの相談に迅速・誠実に対応している。	95	・学校経営方針に基づき、何かあった場合には、その日の内に解決することへの意識が高まってきた。 ・学年主任を中心に、共有できている。 ・発達についてや教育相談などの課題については、必ず校内委員会で検討し、SCやコーディネーターなども協力し、組織的に丁寧な対応をしている。	95	・良い点は、更に活かして引き続き、組織的に対応していく。 ・面談の際に保護者からの相談等について、全体で共有すべきことについては、生活指導学会等で共有していく。	A	特にコメントなし		
			3 事案発生当日	3 保護者の対応しているという評価70%以上	③ 3.3 ④ 3.7 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.8										
			2 事案発生翌日	2 保護者の対応しているという評価60%以上	⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.8										
			1 事案発生2日以上後	1 保護者の対応しているという評価60%未満	① 4.0 ② 3.5 ③ 3.7 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.9										
業務の改善・働き方改革	働き方改革の推進	9経	働きやすい環境づくり	学校の5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）をSDGsや公費であることを意識して実施する。	④ 週に1回以上実施	④ 教職員の実施しているという評価80%以上	① 4.0 ② 3.5 ③ 3.7 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.9	教職員	学校の5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）をSDGsや公費であることを意識して実施している。	100	・定期的な学校整備を行うことで、整理整頓意識が高まり、日々の習慣化に繋がっていると考えられる。今年度は、データの整理整頓を行い、データを見直すきっかけになった。	100	・今後も、定期的な学校整備を行い、よりよい環境を目指していきたい。また、データの整理整頓も定期的な作業に加え習慣化を目指していきたい。	A	特にコメントなし
					3 月に2～3回実施	3 教職員の実施しているという評価70%以上	③ 3.7 ④ 4.0 ⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.9								
					2 月に1回実施	2 教職員の実施しているという評価60%以上	⑤ 4.0 ⑥ 4.0 専 4.0 全 3.9								
					1 月に1回未満実施	1 教職員の実施しているという評価60%未満	① 3.5 ② 2.0 ③ 4.0 ④ 1.7 ⑤ 3.5 ⑥ 2.0 専 3.4 全 2.9								
10経	教職員の「働き方改革」への意識の向上	「学校における働き方改革推進プラン」（市教委）をふまえ、平日の在校時間を10時間以内とする取組の一つとして、定時退勤日を各自設定、実施する。	④ 月に4回以上	④ 定時退勤を月4回以上しているという評価80%以上	① 3.5 ② 2.0 ③ 4.0 ④ 1.7 ⑤ 3.5 ⑥ 2.0 専 3.4 全 2.9	教職員	月に4回以上、定時退勤をしている。	73	・1学期の所見を廃止し、また学年便りを廃止するなど、業務量の軽減を行ったが、月に4回以上の定期退勤には至っていない。個人の意識に委ねるのではなく、組織としての対応が必要と考える。	73	・メリハリのある勤務となるように、週に一度はノー残業デーを設定する。	A	先生が気持ち良く、週に一度のノー残業デー100%になると良い。 5：30帰りの日が増えますように。 勤務時間内のな滞時間が取れないのではと、心配である。良い授業、指導を今後も続けていただくために、先生方には、業務量のバランス、休養を大切にいただきたい。		
			③ 月に3回	③ 定時退勤を月4回以上しているという評価70%以上	③ 4.0 ④ 1.7 ⑤ 3.5 ⑥ 2.0 専 3.4 全 2.9										
			2 月に2回	2 定時退勤を月4回以上しているという評価60%以上	⑤ 3.5 ⑥ 2.0 専 3.4 全 2.9										
			1 月に1回以下	1 定時退勤を月4回以上しているという評価60%未満	① 3.5 ② 2.0 ③ 4.0 ④ 1.7 ⑤ 3.5 ⑥ 2.0 専 3.4 全 2.9										